

山伏（2013m）～大谷崩 周回・

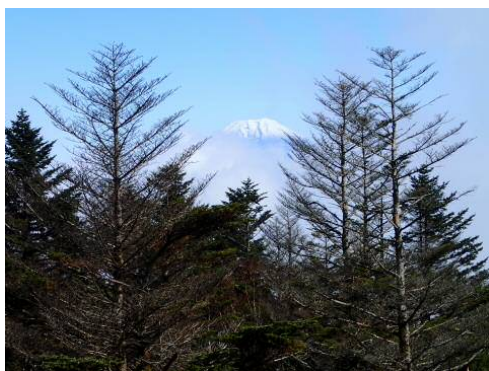
2020年11月3日（火・祝日）晴時々曇り

L：磯部茂（記）・カワセミ・ヤマメ

数年ぶりの山伏。西日影沢沿いから蓬峠に向かう支流の状況は、以前と違いかなり荒れていた。ただ歩行には問題なく、上に行くほど紅葉が進んでいく様は晩秋の山を期待していた通りに風情があった。

また、幸いにもここには登山者が少なく、山に心が溶け込んでいった。

山小屋への分岐を過ぎるといよいよクライマックス。頂上部は開けた気持ちの良い空間で、頂上へは青空に向かって登っていく感じがすばらしい。この感じがとても好きだ。残念ながら富士山は雲の中だったが、しばらくたたずんでいたら、雪を被った頂上付近が顔を出してくれた。



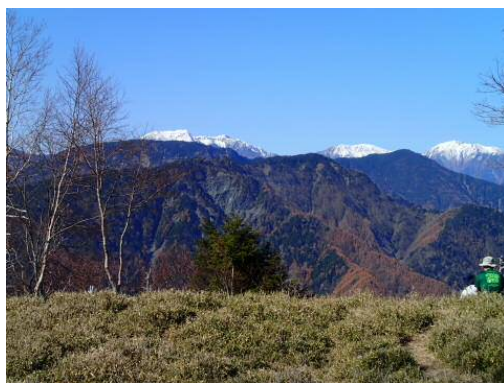
南アルプスも想像以上に雪化粧をして出迎えてくれた。

今回はピストンではなく、この主稜線を大谷嶺に向けて紅葉の中を歩くことが1つの大きな目的だ。ただ、景色はあま

り期待できず、北西斜面をトラバースしていくルートが主流となる。



広々とした山伏頂上



北方には南アルプスが

ここからカワセミさんをトップにして、地図読みの勉強をしながら進む。途中葉が落ちた木々の向こうに、きれいな三角錐の塩見岳が見えた。もちろん真っ白で青空との対比が美しく凜としていた。

1時間半で新窪乗越へ到着、ここからはザレた大谷崩れを下っていく。最初か

ら急勾配をジグザグにきざんでいった。



大崩壊地 大谷崩

荒れていると言うほどでも無く、ルートもはっきりしていてどンドン下る。ただ着地した前足がザレに潜り込むため、疲れた足に踏ん張りは必要だ。

やがて左手に凄まじい大崩壊地が出現した。あとで看板から知ったのだが、1707年の宝永大地震がもたらしたということだった。

この地震の影響で富士山は大噴火を起こし、その形を変えるほどの宝永噴火口を出現させるほどだったのだから、地球の活動はすごいものだ。(ちなみに南海トラフ巨大地震の最大想定はそれ以上！)



上部を見渡す



運動靴ならボロボロかも

やがて小石のザレから岩ガレとなり、対岸が迫ってきて歩きにくかった道も終わりとなる。扇の要からじきに大谷嶺登山口駐車場に着き、デポしてあった三段折りたたみ自転車で、車を回収に行った。

この回収区間は5～6km有り、歩けば1時間半はかかる。このコースは、紅葉と落葉した頂上稜線を楽しむためどうしても日の短い晩秋に臨むことになり、回収手段は重要である。

残念ながら黄金の湯の営業時間には間に合わなかった。出発をもう一時間早めるべきだったか。この時期の温かいお湯は捨てがたかった・・・。

ちなみに黄金の湯やその周辺の透明感のあるグラデーションの紅葉はみごとだった。

<タイム>西日影沢登山口 9:10ー山伏
12:40-13:10ー新窪乗越 14:40ー大谷嶺登山口 16:10